

- 調査企画委員会で設定された4テーマそれぞれについて、技術的課題を整理し、課題解決に向けた研究目標と研究・技術開発のアプローチを3段階の時間スケールで検討

調査企画委員会で設定された4つのテーマ

①噴火予測・前兆現象の評価

②噴火後の推移の評価

③ハザード予測(影響範囲)

④観測

テーマごとに、技術動向検討グループにおいて議論・検討

技術動向検討グループでの検討フレーム

- それぞれのテーマの技術的課題を整理し、解決に必要な時間スケールに応じた研究目標と研究・技術開発のアプローチを検討
- 時間スケールは、比較的短期(5年程度)、中期(10年程度)、最終的の3段階で検討

研究目標

具体的なアプローチ

比較的短期
(5年程度)

比較的短期(5年程度)の
達成が見込まれる目標

中期
(10年程度)

中期的(10年程度)に
達成を目指す目標

最終的

最終的に達成を
目指す目標

課題解決に向けた
研究・技術開発の
アプローチ

技術的課題から検討

技術動向検討グループの検討経緯

第3回 火山防災に係る調査企画委員会(令和元年7月17日)

火山防災の施策・研究の方向性に係るテーマ設定

テーマ:「①噴火予測・前兆現象の評価」、「②噴火後の推移の評価」、「③ハザード予測(影響範囲)」、「④観測」

第5回 技術動向検討グループ(令和元年8月5日)

- 検討テーマと今後のすすめ方について確認
- 「噴火予測・前兆現象の評価」、「噴火後の推移の評価」に資する技術的課題及び解決のアプローチ等について、委員から話題提供
 - 気象庁「行政ニーズと現状及び課題等について」
 - 前野委員(東京大学)「噴出物にもとづく火山活動の評価 中長期評価・推移予測」
 - 山本委員(東北大学)「地震学的手法による観測・解析」
 - 角野委員(東京大学)「火山ガスからの話題提供」
 - 小久保委員(気象研究所)「地殻変動による火山活動の評価に関連して」

第6回 技術動向検討グループ(令和元年10月9日)

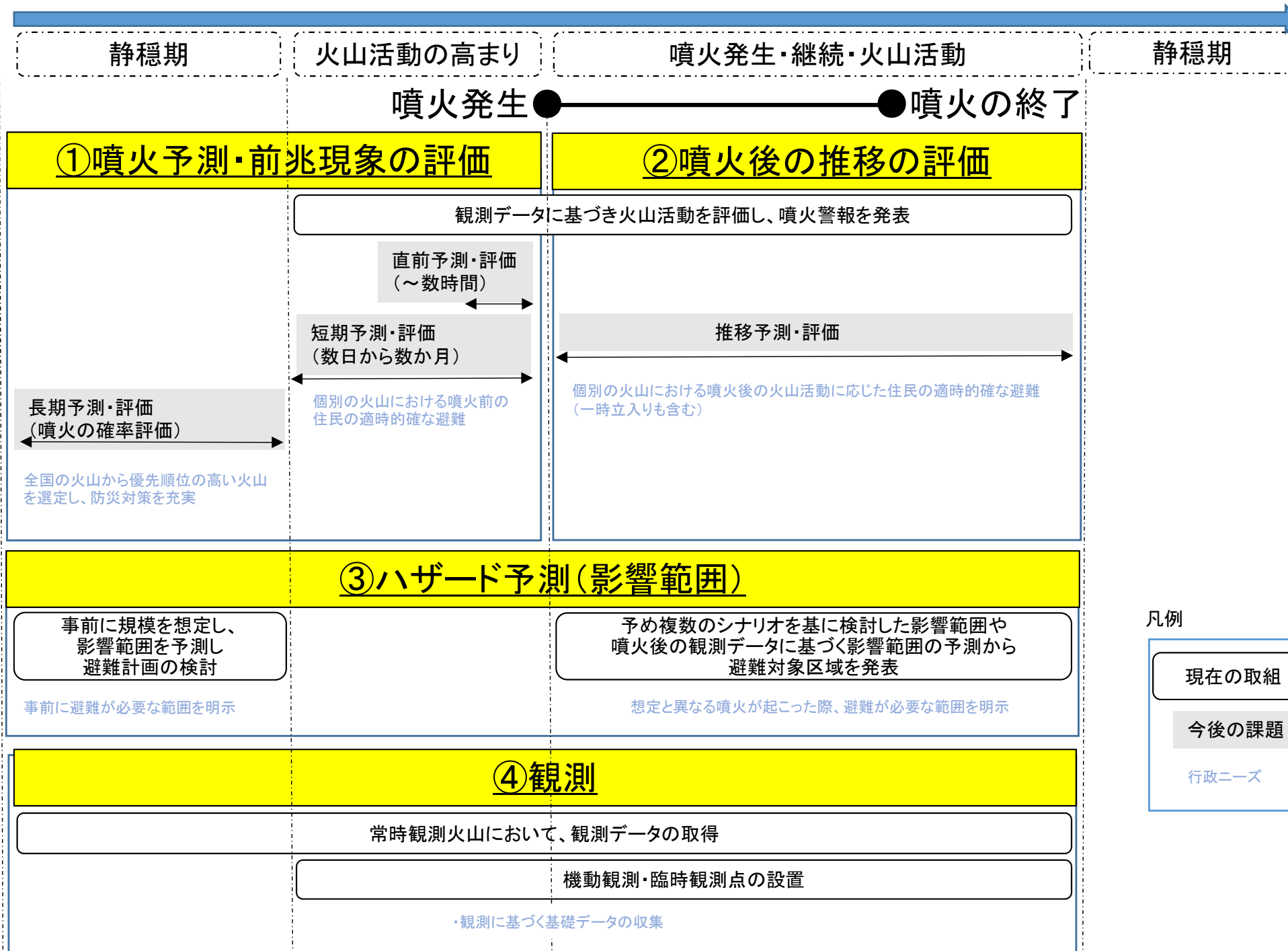
- 「噴火予測・前兆現象の評価」、「噴火後の推移の評価」に資する施策・研究の方向性について、委員から話題提供があり、報告書骨子案を検討
 - 神田委員(東京工業大学)「火口周辺の地下構造把握の現状」
 - 下司委員(産業技術総合研究所)「地質調査に基づく噴火履歴調査の現状」
- 「ハザード予測(影響範囲)」に資する技術的課題及び解決のアプローチ等について、委員から話題提供
 - 気象庁「噴火が発生した場所の特定の重要性について」
 - 砂防部「リアルタイムハザードマップについて」
 - 青山委員(北海道大学)「空振計や地震計等を用いた火口の特定の観点から」

第7回 技術動向検討グループ(令和元年12月26日)

- 「噴火予測・前兆現象の評価」、「噴火後の推移の評価」に資する施策・研究の方向性について、報告書案を検討
- 「ハザード予測(影響範囲)」に資するに資する施策・研究の方向性について、報告書骨子案を検討
- 「観測」に資するに資する施策・研究の方向性について、行政から話題提供があり、報告書骨子案を検討
 - 気象庁「気象庁の火山観測体制強化策と課題」
 - 砂防部「ハザード予測のための火山灰堆積厚把握手法の現地試験」
- カルデラ噴火について、下司委員(産業技術総合研究所)より話題提供
- 山体崩壊について、前野委員(東京大学)より話題提供

第8回 技術動向検討グループ(令和2年2月13日)

- 「噴火予測・前兆現象の評価」、「噴火後の推移の評価」、「ハザード予測(影響範囲)」、「観測」に資する施策・研究の方向性について、報告書案を検討



凡例

